

# 2017年度環境会計報告

## 環境保全コスト

(単位:千円)

分類	主な取組み	イトーキ単体		イトーキグループ全体	
		投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト	-	68,162	208,408	132,642	490,307
公害防止コスト	塗装Aラインサイクロン化	43,569	63,900	43,569	81,386
地球環境保全コスト	工場の照明を省エネタイプへ更新	21,593	106,449	21,593	108,375
資源循環コスト	一般廃棄物と産業廃棄物の減量化、リサイクル、梱包機械の更新	3,000	38,059	67,480	300,546
上・下流コスト	廃棄物処理業者視察、グループ会社環境ISO活動指導、使用済み製品の運搬、リサイクル、処理費用	0	775	0	16,940
管理活動コスト	環境ISOの維持管理活動、環境ラベルの取得、展示会出展などによる情報開示、環境パフォーマンス等の監視、事業所内の緑化、レンタル資産減価償却費、CSRコンサル費用	0	199,303	0	210,556
研究開発活動コスト	環境負荷の低減に貢献する製品の設計・開発、新素材の研究・開発	47,109	61,655	47,109	61,779
社会活動コスト	ユニバーサルデザイン、環境関連団体への参画、社会貢献活動の実施	0	459	0	459
環境損傷対応コスト	-	0	0	0	0
合計		115,271	470,600	179,751	780,041

集計範囲 イトーキおよび国内製造系グループ4社((株)イトーキ東光製作所、イトーキマルイ工業(株)、富士リビング工業(株)、伊藤喜オールスチール(株))、国内非製造系グループ会社7社((株)イトーキマーケットスペース、(株)イトーキエンジニアリングサービス、(株)シマソービ、(株)イトーキ北海道、三幸ファシリティーズ(株)、(株)エフエム・スタッフ、(株)イトーキシェアードバリュー)

集計期間 2017年1月1日～12月31日

参考にしたガイドライン 環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

- 集計の考え方
- ・環境活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境活動に係わる割合を適切に按分して算出
  - ・研究開発活動コストは、弊社「環境アセスメントガイドライン」の基準にのっとり、開発テーマ毎に環境に係わる割合を適切に按分して算出
  - ・環境配慮製品の計上は、環境配慮製品と非配慮製品との価格差が大きいハイブリッド車のみ差額を計上

## 環境保全効果

項目	イトーキ単体		イトーキグループ		前年度比		集計範囲
	2016年度	2017年度	2016年度	2017年度	イトーキ単体	イトーキグループ	
PRTR法届出対象物質 取扱量 (t)	51	45	-	103	-6	-	イトーキ単体
NOX排出量 (kg)	7,303	6,087	-	6,087	-7,297	-	イトーキ単体
SOX排出量 (kg)	1	0	-	0	-0.62	-	イトーキ単体
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	18,996	18,537	22,701	22,540	-458	-161	イトーキ+社
廃棄物総排出量 (t)	5,546	5,438	10,565	8,923	-108	1,642	イトーキ+9社
廃棄物焼却・埋立処分量 (t)	33.4	21.8	503	237	-12	-267	イトーキ+9社
産業廃棄物リサイクル率	99.4%	99.6%	94.8%	97.8%	0	0	イトーキ+9社
事業系一般廃棄物リサイクル率	99.5%	99.1%	98.2%	98.1%	0	0	イトーキ+9社
エコマーク登録商品数	14	14	-	-	0	-	イトーキ単体

集計範囲 「イトーキ+9」: イトーキおよび国内製造系グループ会社4社、国内非製造系グループ会社5社((株)イトーキシェアードバリュー、(株)エフエム・スタッフはイトーキビル内に在籍しており、CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量はイトーキとしてカウントしているため除く)

集計期間 2017年1月1日～12月31日